

令和5年度（2023年度）合格体験記 インテリア科（就職）

住友林業ホームエンジニアリング株式会社 東京第二事業部

インテリア科 男子（令和5年度）

私が進路について考え始めたのは2年生の時でした。最初は専門学校に行きたいと思っていましたが、オープンキャンパスに行った際に雰囲気合わず費用も多くかかり、就職して経験を多く積もうと思い就職をすることにしました。高校に入る前から木を使った仕事に携わりたいと思い、力仕事で人手不足も深刻なことから建築大工を目指すことになりました。

会社を決めるにあたって最初は地元の企業に就職しようという思いが半分、上京して生活していきたいという思いが半分でしたが、調べていくうちに最適だと感じた東京の企業を選びました。一人暮らしをしながらなので不安も感じましたが、家族もサポートしてくれると言ってくれたので住友林業に決めました。

試験は面接、YGI 性格検査、一般常識（国語、数学、理科、英語）、作文（大工、躯体、左官になってやりたいこと。1時間で字数制限なし）でした。最初は面接で聞かれそうな質問に対する答えをノートに書きだし、ひたすら練習しを繰り返しスムーズに言えるようにだけはしました。しかし、丸暗記は忘れやすいので、これだけは言おうというキーワードを決めておくことで大分話しやすくなりました。面接試験前は、案内係の方がたくさん話をしてくださり気持ちが和らぎ、面接では自分らしさをさらけ出すことができました。しかし、面接官の人数が多く緊張しました。一般常識対策では、参考書を購入して学習を進めました。結果の公表が無かったため出来映えは分かりませんが、難しい問題が多かったです。作文は面接で上手く伝えられなかった事を相手に伝える最後のチャンスなので、面接内容を良く思い出して、要点を分かりやすく記述したほうが良いと思います。

振り返ってみると、もっと対策を深めておけば当日、楽にできたのかなと思いました。次年度以降受験される人がいれば是非頑張ってください。

決めたばかりの時は高校卒業して働くことはどうなのかなと思っていて、大半の人は進学して知識をつけてから働くので複雑な気持ちでした。ですが、後悔はありません。高卒で働いたほうが経験を多く積めるし、毎日きちんとやっていけば周りの人に負けられないような人になれると思っています。

入社後は、まずは一年間の実習がありますが、そこで知識をつけ、2年日以降は東京という慣れない環境でもやっていけるよう目標を持って、支えてくれる家族に感謝しながら立派な建築大工になれるように頑張っていきたいです。

富士特殊紙業

インテリア科 男子（令和5年度）

私は、もの作りが大好きで卒業後も、もの作りで社会に貢献していきたいと考えます。最初は、もの作りに携わっている長野県周辺の会社を検索し各会社を調べていたところ、担任の先生が富士特殊紙業さんのパンフレットを持ってきて、この会社はどう？ということがこの会社との出会いでした。会社のパンフレットやホームページを見ると食品パッケージを主に手掛けている会社だと分かりました。私は、もの作りに関わっている仕事なら特にこだわりはありませんでしたし、先輩が行ってることもあり、この会社に行くことを決めました。

就職活動始めの会社見学では、富士特殊紙業さんとヤマザキパンさんにも会社見学に行きました。どちらの会社も社員の皆さんの雰囲気も良く、どちらに行っても続けられそうだなと感じました。その中で富士特殊紙業さんを選んだ理由は、人柄の良さももちろんですが、様々な作業の工程があり自分のやりたい作業が選べたり、作業レポートも増やせるという期待感が大きかったからです。

富士特殊紙業さんに入社試験を受けるにあたって準備したことは、一般常識問題と面接の練習をたくさん積み重ねることでした。一般常識は国語、数学、英語、社会、理科の中学で学習する範囲の学習に取り組みました。他には時事問題が出題されるので、毎日のニュースをしっかりと確認しました。簡単な問題ばかりなので落ち着いて答えれば大丈夫です。面接練習は過去の先輩の受験報告書を見て、先輩が受けた質問を答えられるように準備しました。しかし、いざ本番になってみると楽しい雰囲気での面接で、面接の内容もおしゃべりの延長戦上のような感じでしたので、来年富士特殊紙業さんを受験しようかなと思っている人は、あまり気負わず落ち着いて取り組めば大丈夫です。質問内容は一般的な面接と内容は変わらないので、面接で聞かれやすい質問などは「進路の手引き」を参照し質問に答えられるようにしていきましょう。就職できた暁には、今まで野球部で培った精神力や体力、根気等を最大限に生かしていきたいです。

高校の3年間での部活動では、めんどくさいなとか、きついし辞めたいなとか思ってる人が少なからずいるとは思いますが、今思い返すと3年間継続して活動に取り組むことができ、いい仲間を持つこと、いい経験を積めたこと等が私の宝でもあり、高校時代の良き思い出と感じています。きつかったけど頑張った経験は、この先の人生のどこかで必ず生きて来ると思っています。皆さんも頑張ってください。

(株)和が家

インテリア科 女子 (令和5年度)

小さいころから地域のおじいちゃん、おばあちゃんと接する機会があり沢山のことを教えてもらいました。少子高齢化で高齢者が増える中で、自分に何かおじいちゃんやおばあちゃんにできることはないかと思い介護士になることを決めました。

様々な形態の会社がある中で、高齢者に寄り添い施設利用者の自立を手伝うような仕事をしたいと思い探していたところ株式会社和が家を見つけました。見学に参加させていただき、自分のなりたい介護士像に当てはまっていると感じ、この会社に決めました。

面接試験を経験し、やっておいてよかったなと感じたことは、ホームページをよく閲覧し予習していったことです。面接では、ホームページを閲覧したことで答えられる質問もあり、とてもラッキーでした。反省点としては、その会社についての一般的な内容だけでなく、仕事の係内容、種類の詳しい情報や、用語についても意味を調べていけばよかったです。その後、体験+面接の機会もあり利用者の方との実際の交流もしました。試験当日では、試験現場へは早めに着いていて時間に余裕があったので、面接試験等気持ちも落ち着けて臨めて良かったと感じています。その場で合格をいただけて就職に向けて介護の本なども貸していただけたので、介護についての予習などしていきたいです。

ハラセサービス

インテリア科 男子 (令和5年度)

私が本格的に就職のことを考えるようになったのは、高校2年生のときでした。

ハラセサービスに決めた理由は父親も電気工事士で、私自身昔から電気機器を使ったり、いじったりすることが好きだったからです。

三年の夏休みには何社か企業見学を申し込み、同じ電気工事関係の企業の業務内容を見学してきました。決定した企業は、人間関係的にも安心感があったので、私は縁故採用という形で就職を決定しました。就職活動は電気工事士2種の資格をとるための試験勉強のみを行いました。過去問題を解いたり、資格を持っている父親に問題を出題してもらい答えたりということを繰り返し勉強しました。

入社後は、まずは安全第一で仕事を覚え、手早く正確に行えるように職場の先輩から技術や知識を吸収し自分の力にしていきたいです。仕事と学習をコツコツと行い、一人前の電気工事士を目指したいです。

令和4～2年度（2022～2020年度） 合格体験記 インテリア科（就職）

株式会社霧しな

インテリア科 男子（令和4年度）

私が進路について考え始めたのは、二年生の時からです。当時は専門学校への進学を考えていました。しかし、家庭の事情で進学をあきらめ、就職することになりました。

就職先を決めるにあたり、私自身は元々物づくりが好きなこともあり、製造業に興味がありました。三年の夏には、合計四社を訪問し、会社見学してきました。

株式会社霧しなに決めた理由は、親族もこの会社に勤務していること、会社の環境や評判も良く、私に合っていると思ったからです。また、霧しなの商品は、木曾を代表する程有名で、土産品としても、贈答品としても多く利用されています。全国のスーパーマーケットでも、乾麺コーナーに並んでいます。このような商品製造には是非携わってみたいと思ったからです。

入社試験は適性検査と面接がありました。適性検査の対策は、特に何もしていませんでしたが、受験本番に意識したことは、落ち着いて臨むということでした。面接試験は、検査官4人と私1人で、30分程でした。とても緊張して、上手に答えられたのか、あまりよく覚えていません。

後日、合格の通知が届いた時は、とても嬉しかったです。面接練習は、進路の手引きにある就職面接質問内容を元に自分の考えをまとめる等しっかり行ったのですが、自信が無かったため、結果を聞いて安心しました。

来年からは社会人として、会社や社会の一員として地域に貢献したいと思います。また、ちょっとずつでも親の支えになれるように、頑張っていきたいです。

木曾広域連合事務

インテリア科 女子（令和4年度）

私が進路について考え始めたのは高校二年生の時でした。三年生に近づくにつれて周りのクラスメイトは、自分のやりたいことや行きたい学校が既に決まっていました。そんな中焦りを感じた私は先生に相談に行きました。「学力も悪くないし、体力はあるから、女性消防士はどうだ」と、先生は言うて下さいました。私は高校での成績は良かれ悪かれ、普通でした。体力面では、部活動でバスケットボールをやっていたため、自信がありました。また、体を動かすことが趣味なほど運動は好きでした。しかし、消防士と聞いても特に憧れはなく、そこを目標とすることにはなりません。どちらかといえばもっと広い意味での「公務員」にどこか魅かれるものがありました。このことを先生に伝えました。「とりあえず公務員模試を受けたらどうだ」とアドバイスをいただきました。この言葉が私を公務員に近づけてくれたと思います。

そこからは、初級地方公務員過去問等を使い学習を進め、一ヶ月に一回程度計画されてい

る模試を受け続けました。教養試験は私の学力では答えられないくらい難しかったように感じました。適性検査はやり方を覚えると楽しく、飽きることがなかったです。一回やった問題は見直しをして次に繋がるようにしていました。その結果、一回目より教養試験の点は伸び、適性検査も80%はとれるようになりました。結果が出ない時でも、次に好結果を出す可能性を信じて諦めずに努力することは大切だと、自分の経験を通して感じました。

三年生になると、ほぼ毎日進路についての話題があり、気を抜かずに自分の進路を考えなくてはなりません。三年になって私は、公務員を目指すことを決意しました。夏休みに入り、私は大原簿記松本校での夏期講習に足を運びました。そこには、公務員を志望する多くの高校生がいました。私だけが必死に勉強しているわけじゃないと思い、少し気が楽になったと同時に、もっと頑張らないといけないという思いも出てきました。講習を終え、残りの休み期間も図書館などに行き、勉強に励みました。

一次試験の内容は教養試験、適性検査、作文でした。ほとんどは今まで勉強してきた形式の問題でした。作文は、ほとんど基本練習しかせず本番を迎えたので、少し焦りもありましたが、落ち着いて取り組むことができました。

二次試験は面接試験でした。試験官は4人いる中で行いました。とにかく焦らずに力を抜いてはしっかり答えることが大切でだと思いました。

私は最初から公務員を目指して模試を受けていたわけではありませんが、今はあの時の「とりあえず」の気持ちで受けたことに感謝しています。私のように進路に悩んでいる人がいたら、とりあえずの気持ちで良いので自分から行動を起こしてみると、やりたいことが見つかるかもしれません。あとは自分の努力次第だと思います。結果が出なかったとしても努力したことは無駄にはなりません。自分を信じて頑張ってください。

株式会社竜東スチール

インテリア科 女子 (令和4年度)

私は入学当初から高校を卒業したら社会に出て働きたいと考えていました。最初は製造業やサービス業といった分野の職業に就きたいと思っていました。しかし、夏休み中に行った会社見学での製造業やサービス業は自分の中であまりピンと来ず、自分がやりたいと感じる仕事内容ではありませんでした。そこで、求人票を何回も見直し、違う分野の仕事を調べ中、事務の仕事が目につきました。高校2年生の授業で、ワードやエクセルに関する知識や技術を習得できたこと、併せて資格を取得できたこと、これらの体験が私を事務の仕事に向かせたのだと考えます。

両親も職種選択に納得してくれたので、夏休み明けに会社見学に行きました。私は事務職希望での見学でしたが、竜東スチールはものづくりの会社です。私がインテリア科で学習してきたものづくりに対する気持ちは、この会社にも繋がるのかなと心強く感じ、この会社への就職試験に応募しました。

試験内容は面接、適性検査、作文の3つでした。面接官は二人で、30分程面接でした。質問内容は事前に練習した内容に無かった質問が多々ありましたが、焦らず落ち着いて答えることができました。適性検査はどんな内容の検査なのかが分からず、念のため適性検査

対策のテキストを本屋で購入して対策しましたが、全く違う内容でした。ですが落ち着いて時間内に解くことができました。作文は事前に書いて、当日提出という形でした。担任の先生や、クラブ顧問の先生に読んでもらい、高評価をいただいたので、自信をもって会社の方に提出することができました。試験中も言葉遣いや、姿勢を正すことに意識していました。内定の知らせを頂いたときは家族や友達、お世話になった先生方も一緒に喜んでくださりとても嬉しかったです。

小川歯科クリニック

インテリア科 女子 (令和4年度卒)

私が進路について考え始めたのは、三年生になってからでした。最初のうちは進学を考えていましたが、凄くやりたいことや目標がはっきりしていなかったなので、就職にしようと思進路方向を決めました。

私は人と関わるのが好きなので、就職するなら人と関わる仕事にしようと思、調べていく中で歯科助手という職業を見つけました。歯科助手として働くには、資格などはいらないのですが、少しでも歯科の知識を身に着けたいと思、歯科助手の資格を取ることにしました。そこからたくさん勉強をして資格を取ることができました。決めてからは本格的に歯科助手について調べたり、この職種について更に学習を深めました。

また、私は長野県内で就職したいと考えていたので、インターネットで調査し、こちらの歯医クリニックを候補とし、会社見学に行きました。担当していただいた方がとても親切で、施設もととのっていたことから、私もこちらで働き、この歯科クリニックに貢献したいと強く思い、面接を受けることにしました。

入社試験は面接のみで、担任の先生とインテリア科の先生を中心に面接練習を行いました。私は高校受験の際に後期試験で入学したので、面接というものをしたことがなく、最初は不安だらけでした。ですが、面接練習の際に考えた文章を全部頭の中に入れるのではなく、自分が伝えたい内容の単語だけを頭に入れるようにしました。そのおかげで実際の面接では、緊張しすぎず、リラックスして臨むことができました。

入社後は、覚えることがたくさんありますが、職場の方とコミュニケーションをとりながら、患者さんが安心してきていただけるように笑顔で業務に専念したいと考えています。

株式会社新陽物産

インテリア科 男子 (令和4年度)

私が、進路について明確に考え始めたのは3年生になってからでした。それまでは、ぼんやりと家具製作関係の仕事をしたいたしか考えていませんでした。進路講話や志願理由書の練習等を通して家具製作に関わることのできる仕事について調べるようになりました。はじめは求人サイトで片っ端から企業のホームページや実績、写真等を調べ、いいと感じた企業をいくつかリストアップし、両親とも相談しながら見学に行く企業を決めました。

夏休み中には、3つの企業に見学に行き企業の雰囲気や業務内容等の見学をしてきました。その中で株式会社新陽物産に応募を決め履歴書を送りました。しばらくして担任の先生から書類を渡され、「内定です」と言われました。また、先生から「見学が面接の代わりになったそうです」とも言われました。もともと、見学に行った際に技術がなかったとしても若くて長い期間働ける人をこれから雇うようにしていく。他の企業にも見学に行っても興味があれば求人票など対応します。と言われていましたが、面接など試験なしに内定をもらえるとは思っていませんでした。このことから、試験は見学の時から始まっているということを考えて、服装や言葉使いなどに気を付けた方がいいと思いました。

入社後は、いち早く業務内容を覚えつつも、自分の技術を磨くためにたくさん見たり感じたりして、技術の向上に努めていきたいです。

社会福祉法人 サン・ビジョン

インテリア科 女子 (令和3年度卒)

私が、本気で介護の仕事がやりたいと思ったのは、夏休み前のことでした。それまでは、将来に向けてやりたいこともなく、あまり得意な事もなかったのもので何をしていけばいいかずっと悩んでいました。なんとなく思いついたのは、本屋やスーパー系といった接客業でした。しかし、あまり自分の中ではピンと来ず、何度も先生と面談をしては考え直していました。その中で、自分の長所である、人の悩みを聞くというところに焦点を当ててみました。人の為に行動し、助けたり、一緒に楽しめたりすることは、私にとってとても大切な生き甲斐でもあります。

中学二年生の時に職場体験で介護職の体験をしました。その時に利用者の方とレクリエーションをして楽しんだり、生活のお手伝いをして「ありがとう」とお礼の言葉をいただいたりして、とても嬉しい気持ちになりました。それは私の長所を生かした生きがいのようなものなのかなと感じました。実際に企業見学をさせていただきました。利用者の方と職員双方がとても楽しそうに生活していました。その様子を見て、私はここで働きたいと強く思いました。少し遅くなってしまいましたが、ようやく私のやりたい事が見つかりました。

入社試験に向けて面接練習をしました。初めて担任の先生と練習した時は、話したいことがまとまらず、指摘されるが多かったです。ですが、何回も練習していくうちに話すことがまとまり、自己の成長を感じることができました。

面接当日は、適正検査を受けた後に面接をしました。緊張しましたが、冷静にはっきりとした声で質問に答えることができました。面接の雰囲気はあまり固くなく、二対一だったので安心して受けることができました。

入社後の目標は介護の資格取得の勉強をしながら、利用者の方々を笑顔にできるよう、先輩方に仕事を教えてもらい、臨機応変に対応できる介護福祉士を目指したいです。

マルオカ工業株式会社

インテリア科 男子 (令和3年度卒)

私が進路について考え始めたのは、3年生になってからでした。当時は今とは違う職種を考えていました。中学2年の時に職場体験があり、私は接客業を体験させていただき、その時に接客業の仕事の楽しさを学びました。高校に入学し、授業で木を使ってものづくりをする学習体験をとおり、木に携わる仕事に就きたいと強く考えるようになりました。もともと、私は小さい頃から木で何かを造る事が好きだったということもあり、自然な成り行きだったとも感じています。その事を先生方や親とも相談し、接客業より木に携わった仕事という方向で大まかな職種を決め見学や書類検索を進めました。

第一候補とした企業は、キャンパスの木枠などを造っている「マルオカ工業株式会社」でした。会社見学をさせていただいた際に「この仕事なら自分に向いている。ここで働きたい。」と感じ決定しました。

受験準備としては、選考方法が面接だったので面接練習に力を入れました。先生方をお願いをし、繰り返し面接練習を行いました。注意されたところをメモしては直し、今度は前にできていたところを失敗してしまい復習練習、といった苦勞の連続でした。家でも親や姉をお願いをして面接練習に取り組みました。

試験当日の面接では、とても緊張しましたが、落ち着いて大きな声で質問に答えることができました。立ち居振る舞いも失礼が無かったと思います。卒業までの残り少ない学校生活ですが悔いの残らないように過ごし、卒業後は社会人になったという自覚を常に持ち、職場貢献に合わせ地域貢献もできるよう働きたいです。

丸林商工株式会社

インテリア科 男子 (令和3年度卒)

私が自身の進路について考え始めたのは、高校3年生の夏でした。最初は、ただ簡単に就職するという思いがあっただけで、何をしたいかは考えていませんでした。そんな状況で、私がこの会社を選ぶきっかけとなったのは、夏休み中に行われた就職希望者向けのガイダンスに参加したことでした。最初は具体的な就職などは決めていなかったのですが、いくつかの企業を見学させていただきました。私はそんな中で丸林商工株式会社に応募を決めました。理由は、部活やインテリア科の工業クラブで経験したことを活かせると思ったからです。

入社試験は面接でした。面接だけでしたので、その点に力を入れました。先生方に面接練習をお願いして練習しました。私は緊張すると言葉が出にくくなってしまうことがあるのでなるべくリラックスまでとはいきませんが、普段通り話すことを意識するように心掛けました。実際の面接では、履歴書の中からの質問が多かったのですが、中には違った分野からの質問等もありました。その時はとにかく焦らず、練習したことを思い出し、自分のペースで丁寧に、自分の意見や考えを相手に伝えることができました。

入社後の目標は様々なことに挑戦し、1日でも早く吸収していくことです。そのために今から得意、不得意に関係なく積極的に行動し、日々の生活を大切に送っていきたいです。

木曾農業協同組合

インテリア科 女子 (令和2年度卒)

私は高校二年生の時に進路を就職と決め、就職するなら事務系がいいかなと思っていました。

事務系にもいろいろな仕事があって、どういう仕事がいいのか悩んでいたとき、親戚に農業協同組合で働いている方がいたので、どんな仕事をしているのか聞いてみることにしました。その方は農業協同組合の金融窓口で働いているようで、農家の方や地域の方とたくさん関わったり、金融の事務をしたりしているとのことでした。事務系の仕事は人とあまり関わらない仕事なんだろうなというイメージだったので人と関わりを持ちながら事務をできるという仕事にとっても魅力を感じました。

それから農業協同組合がどういう組織なのか知るために会社見学に行きました。担当の方がとても親切にしてくださり、職場の雰囲気も和やかだと感じました。農業協同組合は地域の方々の暮らしに役立つため、様々な事業をしていることや農業経営者を資金面や技術面など様々な角度からサポートをしているということがわかりました。

私は元々アルバイトをしていて農家の方々と関わる機会が多く農業についてのお話を聞かせていただくこともあり農業の大変さを普段から聞いていたので、農家の方々の役に立てるお仕事ができ、私のやりたい仕事ができるのでとてもいいと思い、決めました。試験の時も緊張をほぐすために担当の方や、面接官の方が和やかな雰囲気になってくださりました。

農業協同組合で農家の方々を支え、地域社会にも貢献できるようこれから頑張りたいです。

降幡自動車株式会社

インテリア科 女子 (令和2年度卒)

私が進路について真剣に考え始めたのは、高校2年生の秋頃からでした。最初は進学を考えていましたが将来やりたいことがはっきりとしていなかったので進学してもやりたいことがなければ意味がないと思い就職をすることにしました。就職と決めた時学校で取得した資格を活かしたいと思いパソコンをよく使う事務系の仕事に就きたいと思いました。

進路室にある求人票の中からいくつか事務系の仕事を探し、いくつか気になった企業を見学させていただきました。私はその中で降幡自動車株式会社に応募することを決めました。両親の影響で車には興味があったので、自分が好きな物に関われる仕事ができ、高校生活で学んできた経験や取得した資格を活かすことができると思ったからです。

入社試験は面接・適性検査の2つでした。面接練習は5回程度やり本番の面接に備えました。志望理由と自己PRは確実に聞かれるのでしっかり言えるようにして、自分自身が質問したいことをあらかじめいくつか用意しておきました。本番は、人事担当・工場長・社長の3人との面接でした。とても緊張しましたが、練習通りに落ち着いて世間話をするような感覚で会話をして質問に対しての受け答えができました。面接の最中、特に気を付けたことは表情と言葉使いです。表情が固いとイメージがガラッと変わってしまうので、

緊張はするものの明るく笑顔でありのままの自分を出すことように心がけていました。言葉使いでは私は、気が緩んでしまうとどこかでタメ口が出てしまうことが多くあったのでタメ口が出ないように気を付けて話しました。

入社してからは、初めてやるが多いため覚える仕事がたくさんありますが、自分が選んだ道なので任された仕事は最後までしっかり成し遂げ、今までやってきたことの努力を無駄にしないように会社のために貢献できるよう頑張っていきたいです

特定非営利活動法人 のぞみの里

インテリア科 女子 (令和2年度卒)

私は高校二年生の時に介護福祉士になりたいと考えるようになりました。私が介護福祉士になりたいと思ったきっかけは、近所に住むお婆さんの歩行の手助けや会話をして、「ありがとう」と言われたことでうれしさを感じたからです。この経験からもっとたくさんのお年寄りの方の役に立てるような仕事に就きたいと考えるようになりました。そのために私は周囲の人への細かい気配りができるように心がけ、誰にでも明るく接しコミュニケーションをとるようにしました。

三年生になり本格的に就職活動が始まり、学校に届いた求人票の中で興味を持ったいくつかの介護施設について調べました。その中で特定非営利活動(NPO 法人)として活動しているのぞみの里に目が留まり、施設の見学をさせていただきました。施設の見学させていただいたときにスタッフの方と利用者の方の距離がとても近く家族のような雰囲気を感じ、居心地がよく私ものぞみの里でスタッフの方と一緒に働き利用者の方々の生活の手伝いをしていきたいと考え、のぞみの里に応募することに決めました。

入社試験は面接試験でした。面接練習は10回程度やり、本番に備えて練習しました。質問内容や自分の話し方、先生からのアドバイスなどをしっかりと聞き対策をしてきました。そして、入社試験当日は、面接練習の時よりも緊張せずに笑顔でハキハキと質問に答えることができました。

入社後の目標は、すぐに現場に入るため覚えることはたくさんありますが、スタッフの方に教えてもらいながら、利用者の方に信頼され、安心してもらえるような介護福祉士を目指します。